

エゾアワビ (あわび)



生態的特徴等

【生態】アワビの仲間は日本全国の沿岸に生息し、茨城県では北方系のエゾアワビが分布する。餌となる大型の海藻が豊富な場所を好み、県内では大洗町以北の浅海岩礁域に生息する。主に秋に産卵し、孵化した幼生は1週間ほど浮遊した後に着底し、底生生活に移行する。本県の栽培漁業の対象種であり、栽培漁業センターで育てた殻長3～3.5cm（2歳）の稚貝は、放流後3～4年で県の漁業調整規則により定められた11cm以上の漁獲サイズまで成長する（図1）。

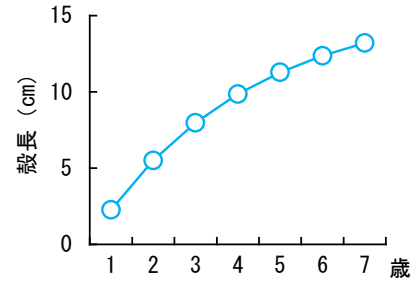


図1 エゾアワビの成長

【漁法と盛漁期】本県では潜水漁業で6月から9月に漁獲される。

【利用】プライドフィッシュ(夏)に選定されている。高級食材であり、料亭や旅館に卸されるほか、乾物(干鮑)に加工した物は輸出もされている。刺身のほか、酒蒸し、バター焼き等で食される。

資源は低位・横ばい傾向

(漁獲量) H23年までは年間10～30トンの漁獲量で推移していた。しかし、東日本大震災の影響により人工種苗の放流量が減少したことを受け、漁業者による自主的な獲り控えが行われた結果、H28年には3.5トンまで低下した。その後、人工種苗の放流再開に伴いH29年からは漁獲量が回復したが、R5年は再び減少し11.5トンとなった（図2）。

(加入量) 放流種苗由来のアワビは漁獲物の約4割を占め、漁獲加入に大きく関係している。種苗の放流数は例年約30万個であったが、震災の影響によりH23、24年は0、H25、26年は10万個となった。H27年以降は約24～30万個の放流が再開されている。

(水準と動向) 資源水準は近年の漁獲量（図2）から「低位」、動向は直近5ヶ年の漁獲量から計算したCPUE (kg/日・人) の傾向（図3）から、「横ばい」と判定した。

水準



動向

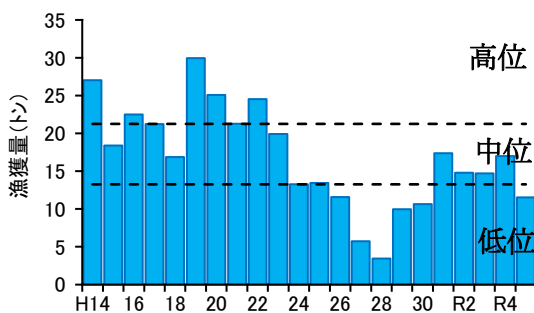
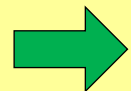


図2 本県におけるアワビ漁獲量の推移

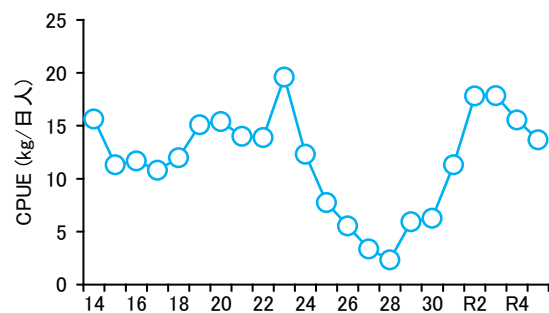


図3 本県におけるアワビのCPUE推移

【全国の漁獲動向】岩手県が全国1位。ほかにエゾアワビ漁獲地域は宮城県、青森県、北海道、クロアワビ、マダカアワビ、メガイアワビ等暖流系アワビ漁獲地域では千葉県、長崎県などが上位に入る。

評価期間：令和5年1～12月 更新日：令和6年3月27日